

香川大学ハニカムプロジェクト

Honey Come! さらなる研鑽・新たな挑戦

代表者 佐藤 琢磨（農学部応用生物科学科2年）

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、「養蜂を通じて自然環境や生物について学び、そこで得た知識を普及することで、私たち市民の環境問題に対する意識や行動を変化させる機会を創出すること」と「イベントを通じて、地域住民と交流し、地域の活性化を目指すこと」を目的とした事業であり、概要は以下の通りである。

- ハチミツや蜜ろうなど、人間に恩恵をもたらし、送粉者として植物と密接な関係にある養蜂を体験したことで、多様な生物が繋がった生態系や、それと人間の生活との関係を実践的に学んだ。
- 養蜂業は一次産業、二次産業、三次産業が一体した六次産業なので、環境と経済活動の繋がりをミツバチの視点から考えた。
- イベントを通じて、本事業のメンバーだけでなく、地域住民にも人間と自然環境の関係や生物同士の関係を実際に体験して学んでもらうことができた。具体的には、イベントでハチミツ販売やスイーツ提供を行うことで、ハチミツや養蜂の知識を普及し、環境問題や生物について興味をもってもらうことができた。
- 新しいことに挑戦し、養蜂やハチミツについての知見を広げることができた。例えば、多度津町で開催された「たどつアートフェスティバル」に参加し、蜜ろうを用いたシーリングスタンプのワークショップの実施や、香川県畜産協会の担当者を大学に招いて意見交換することができた。

2. 実施期間（実施日）

令和6年7月1日から令和7年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、プロジェクトメンバーが養蜂場を毎月2、3回訪問し、1年間継続して、実践的に養蜂を学習できた。また、その知識や経験を地域イベントやSNSを通し外部に発信し、学外の方々に楽しみながら伝える事ができた。

これらの経験により、メンバー主体の養蜂に向けた準備を整えることができた。例えば、訪問する季節・天候によって大きく変化する蜂の様子と、それに合わせた管理の仕方、ミツ

バチの触り方などの基本的な養蜂技術、採蜜や農作物の受粉などに向けたミツバチの仕立て方など、様々な作業内容とその注意点などを学ぶことができた。養蜂に必要な装備や使用する道具について理解し、養蜂がどのような場所で行われ、どのような方法で行われているかも学ぶことができた。

また、シーリングスタンプのワークショップの実施や、香川県畜産協会の担当者との意見交換を通して、ハチミツ販売とは違った知識普及へのアプローチや、畜産という大きな枠組みの中での養蜂の位置付けといった知識を学ぶことができた。さらに、養蜂という農業の現状や課題、法律といったシステムについて知ることができた。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業の実施により、地域のみなさんに養蜂や、ミツバチをとりまく環境問題に興味をもってもらうきっかけを提供できた。また、ハチミツを普段食べないご家庭にハチミツを提案し、興味をもってもらうことで、養蜂業界の活性化につなげることができた。さらに、イベント参加により、協力先である株式会社中田養蜂や香川大学をPRすることができた。

ワークショップを実施して、あまり知られていない蜜ろうという資源の活用方法を提示することで、地域の方々とともに地域資源に対する理解を深めることができた。また、シーリングスタンプを作るワークショップのなかで参加者に書いていただいた手紙を通じて、参加者やその家族、親しい人同士のつながりを強めることに貢献できた。さらに、複数回ワークショップを行うことによって、参加者と交流し、学生のコミュニケーション能力や地域との結びつきの強化につながった。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

プロジェクトメンバーは、毎月2、3回の当番制での養蜂場訪問やイベント開催によって、責任感やスケジュール調整能力、計画性を身につけることができた。また、大学や養蜂場との連絡やイベント主催団体との連絡、イベントでお客様と交流するなかで、コミュニケーション能力を身につけることができた。さらに、養蜂業界のなかで活動させていただいたことで、農業に対する理解が深まり、キャリア形成でも大変有意義であった。

プロジェクトメンバーが所属する学部は様々であり、学部間での交流やそれを活かした多角的な視点からの知見を持つことができた。また、興味関心の異なる人との関わりは「どんな企画がどのような人たちにとって魅力的に感じるのか」を考える際の参考になった。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今年度は、プロジェクトとして、様々なイベントを企画してきたが、企画段階でターゲットを絞ることが徹底されていなかったため、期待したような成果が得られないことがあった。この原因として、企画したイベントの数を増やすことに固執しすぎたことで、現段階で優先すべき事柄が何か考える過程が曖昧になってしまっていたためと考えられる。

来年度は、様々なイベントを企画することを重要視しつつも、効果を最大限に引き出すためのターゲットの絞り込みや、決定したターゲット層にどのようにアプローチするかをしっかりと考えて実施したい。

7. 実施メンバー

代表者 佐藤 琢磨（農学部2年）

構成員

岩本 知優（農学部3年）

斉藤 昂喜（農学部3年）

山下 陸（農学部3年）

内海 孝優（農学部3年）

山崎 美悠（経済学部2年）

遠藤 麻加（農学部2年）

櫻井 麻央（法学部1年）

小田嶋 圭隆（農学部1年）

富井 惺怜（農学部1年）

大倉 万凜（農学部3年）

久松 翔（農学部3年）

丸山 哲平（農学部3年）

畑 碧莉（農学部3年）

曾我部 真衣（農学部2年）

山崎 允力（創造工学部1年）

山下 詩色（教育学部1年）

古田 真希斗（農学部1年）

蕨野 美海（農学部1年）

8. 執行経費内訳書

配分予算額		191,185円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
マグネットシート マットタイプ(青)	1	362	362	
マグネットシート マットタイプ(オレンジ)	1	362	362	
マグネットシート マットタイプ(赤)	1	362	362	
マグネットシート マットタイプ(緑)	1	362	362	
マグネットシート マットタイプ(黄)	1	362	362	
ホワイトボード	1	16,390	16,390	
テンプレート N0110 組合せ定規	1	791	791	
ハサミ	5	384	1,920	
固形アラビック C グルー	1	868	868	
定規	5	98	490	
鉛筆	1	549	549	
色画用紙 A4 判	3	329	987	
プリンターインク	2	4,719	9,438	
交通費(バス代)	33回		19,790	
パンフレットデザイン費・印刷費+消費税			126,632	
合計			179,665	